

2024 夏 子育て家庭アンケートレポート(概要)

1 調査概要

目的：終わりの見えない物価高騰の中、困窮子育て家庭の生活実態と支援ニーズを把握し、当団体の支援活動の充実、必要とされる支援の実現に向けた社会への提言を行うこと。

対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯

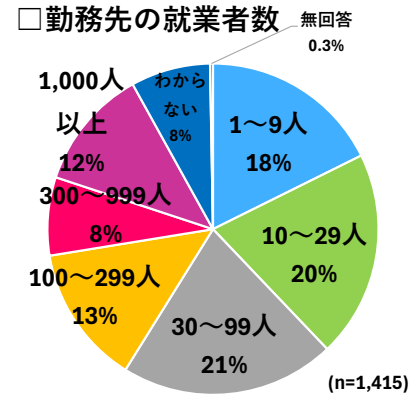
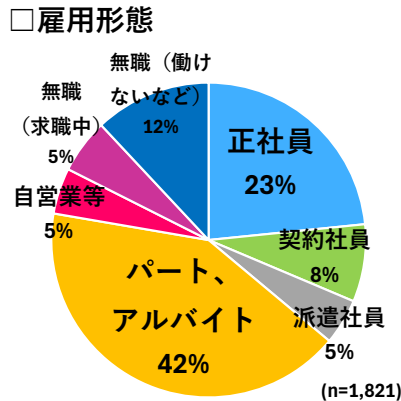
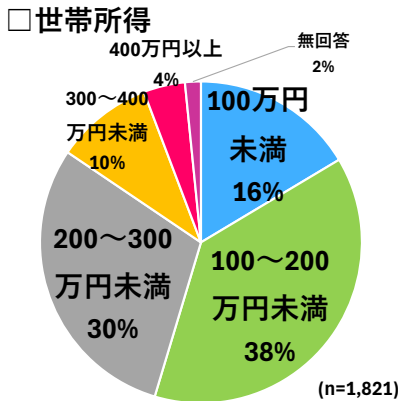
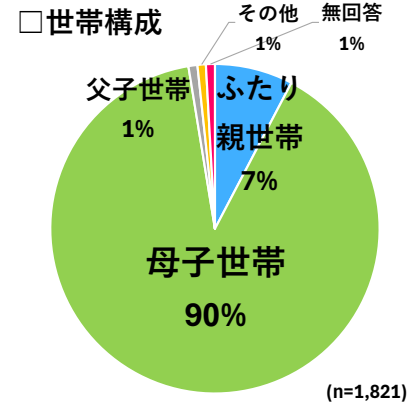
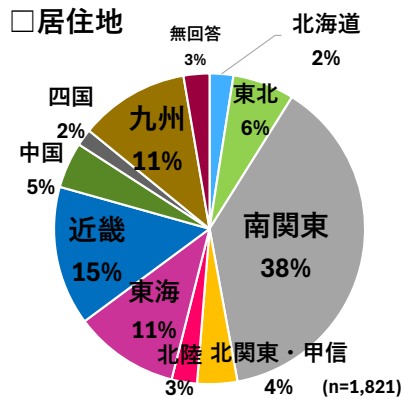
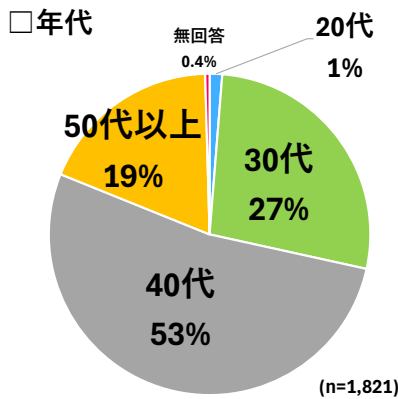
調査期間：2024年5月27日～2024年6月3日

回答数：1,821件

●キッズドア・ファミリーサポートとは？ <https://kidsdoor-family-support.jp/>

「キッズドア・ファミリーサポート」は2020年にコロナ禍に対する緊急支援という形で発足しました。現在では、困窮子育て家庭の保護者を対象に、困窮から抜け出すための物資・情報・就労支援を行っています。

回答者のプロフィール (n=1,821)

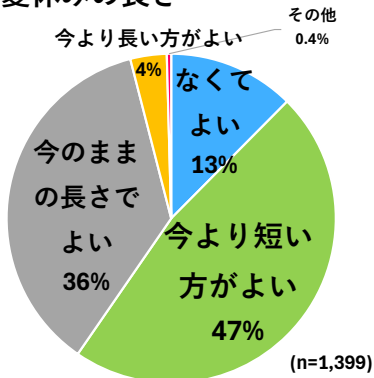


2 調査結果概要

2.1 小学生・中学生の夏休みの実態

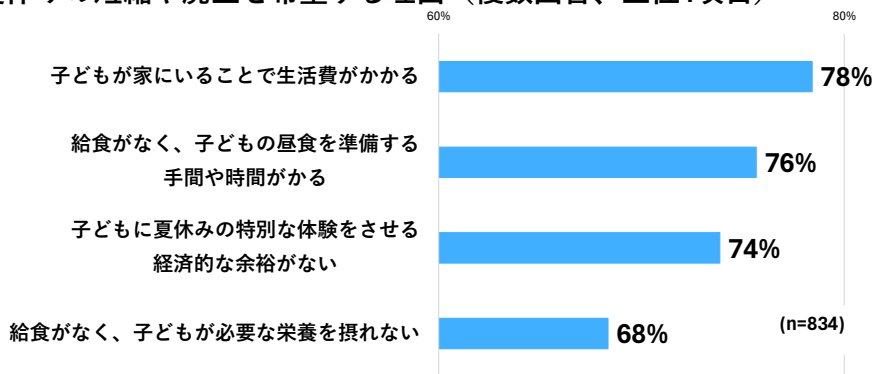
- 6割の保護者が、夏休みについて「今より短い方がよい」または「なくてよい」と考えている。
- 夏休みの短縮や廃止を希望する理由の上位は、生活費の増加、昼食準備の手間や時間、経済的理由による夏休みの体験活動の不足、給食がないことでの子どもの栄養状態。
- 夏休みのアクティビティについて「特に予定しているものはない」との回答が過半数。海水浴や家族旅行等の多くのアクティビティについて、予定している家庭は1割未満。

□夏休みの長さ



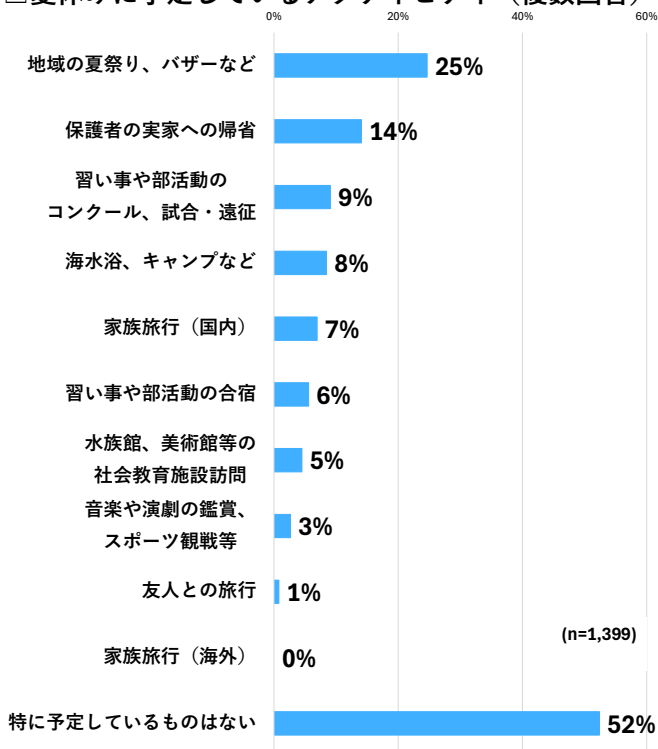
* 「小学生」または「中学生」の子どもがいる回答者が対象。

□夏休みの短縮や廃止を希望する理由（複数回答、上位4項目）



* 夏休みの長さについて「なくてよい」または「今より短い方がよい」とした回答者が対象。

□夏休みに予定しているアクティビティ（複数回答）



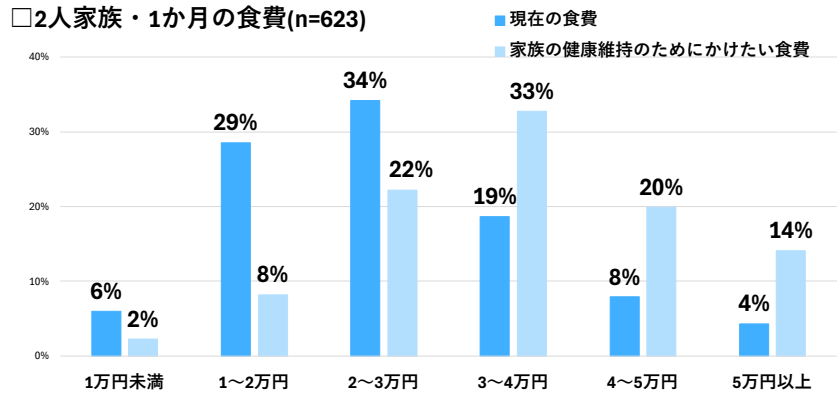
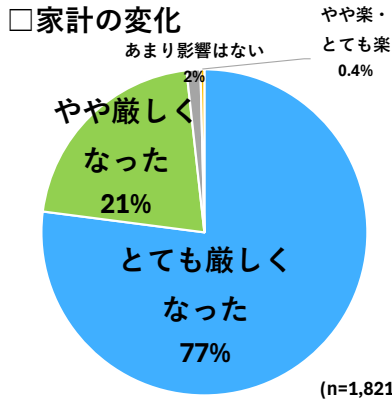
* 「小学生」または「中学生」の子どもがいる回答者が対象。

夏休みに関する困窮家庭の声（自由記述）

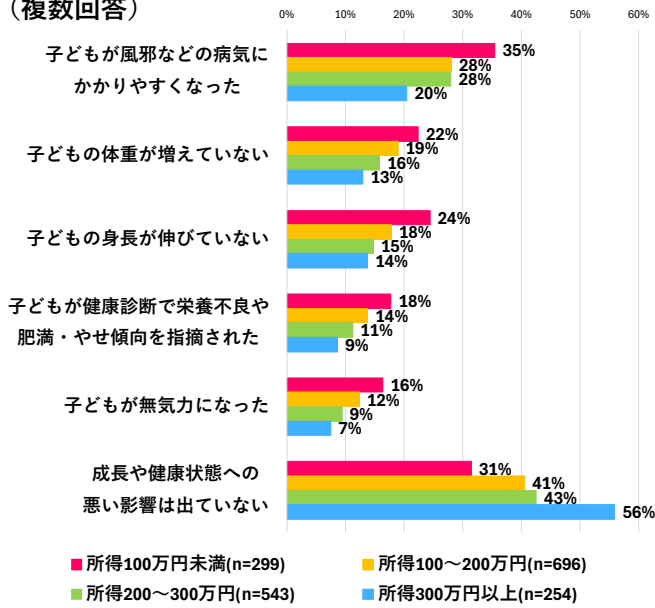
- 学校の長期休みは給食がないので、毎年恐怖です。ここ数年、ものすごく暑くなるべくエアコンかけたくないのですが、仕方なくつけてます。身体が一番大事なので。電気代も高いし、食費もかかるし夏休みは辛いです。
- 夏休み、仕事があるので、学童に行かせないといけませんが、夏休みの弁当を作るのも不安です。子どもから足りないと言われる事もあります。満足する弁当を作ってあげたいです。
- 小学2年生の息子がいます。今年度の学童に落ちてしまったので、今は私が帰ってくるまで4時間ほどお留守番をしてもらっていますが、夏休みは完全に毎日お留守番になってしまうためどうしようか悩んでいます。
- 長期休みが明けると、家族で旅行に行った友達とかの話聞いてきて羨ましそうにしているので格差を感じる。

2.2 物価高騰の影響

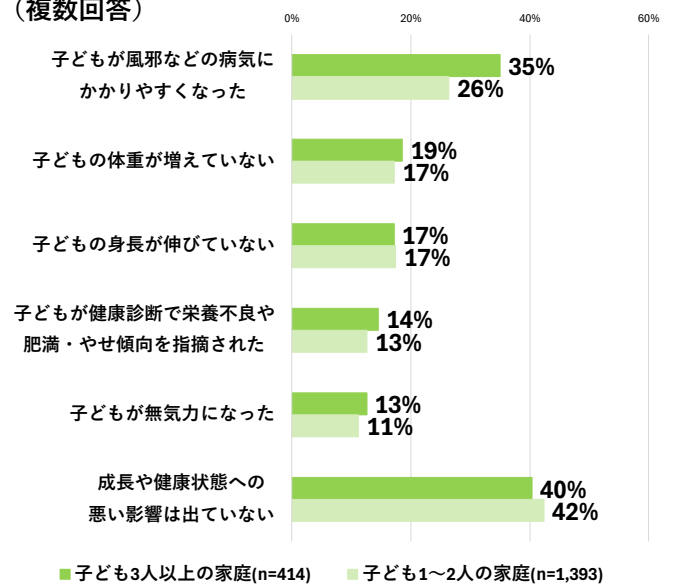
- 物価高騰が続く中、昨年同時期と比べて家計の変化として「とても厳しくなった」が最多の約8割。「やや厳しくなった」も合わせると、98%の家庭が家計の悪化を実感している。
- 現在の1か月の食費は、2人家族だと「2~3万円」（34%）が最も多く、家族の健康を維持するためにかけたいと思う食費（「3~4万円」（33%）が最多）には足りていない。
- 風邪などにかかりやすい、体重が増えない、身長が伸びないといった子どもの成長や健康の問題も顕在化。低所得の家庭ほど深刻な状況であり、所得300万円未満で「成長や健康状態への悪い影響は出ていない」との回答が半数を下回り、所得100万円未満では「子どもが健康診断で栄養不良や肥満・やせ傾向を指摘された」との回答が18%に達する。子ども3人以上の家庭でも、「子どもが風邪などの病気にかかりやすくなった」との回答が35%あった。



□世帯所得別・子どもの成長や健康状態への悪影響 (複数回答)



□子どもの数別・子どもの成長や健康状態への悪影響 (複数回答)



物価高騰の家計や生活への影響 (自由記述)

- 衣食住に対してお金の心配ばかりで、おびやかされています。いつもお金の心配ばかりです。子どもが幸せなのか、心苦しい毎日です。
- 物価上昇に賃金がついていかず、電気やガス代も高くなったので仕事が休みの日などお風呂をやめたりしている。子供も専門学生ですが支払いがあるたびにお金が減ることへの不安感があるようで親としても不憫な思いをさせて申し訳なく思う。
- 何もかもが高くなった上に、賃金が上がりず生活がどんどん苦しくなっている。コロナになっても今までのように補助や補償もないので仕事の休みが増えてしまう。有休では足りず、賃金が減ってしまうのでお金を借りるしかない。小学3年生の長男も、熱があっても身体がきつくて我慢して隠すようになってしまった。私が仕事を休む事になると給与が減る・生活が大変になると遠慮して言えないと言われてしまい、辛い。
- 電気代も食費も衣類も学用品も全部高くなり、本当に苦しいです。会社では1人親の多子世帯のため休む事も増え周りの目が有るから何とかしてくれと言われ来月退職する事になりました。子ども達の頑張っていて意欲的だった習い事も諦めました。子ども達の未来に不安しか無いです。

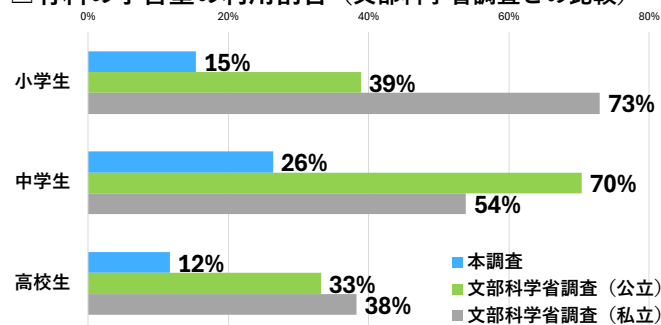
物価高騰の食事への影響（自由記述）

- 食べ盛りの子供3人いますが、一番下の小学生は学校内の内科検診で、体重の減少でひっかかりました。満足な量を食べさせてあげられていないので申し訳ないと思っています。
- 食材が欲しい時に欲しい量を買えずお米おかず一品の日が続いてしまう頻度が増えてしまい子供が常にお腹を空かせている。コロナが落ち着いてきたら食料支援も減ってしまった。
- 食料が高くて買えないのが、一番情けないです。自分より子供を優先に考えて、自分の食事の量や回数を減らしていますが、育ち盛りなので、沢山たべさせてあげたい。

2.3 有料の学習塾の利用

- 有料の学習塾を利用している割合は、本調査では、小学生15%、中学生26%、高校生12%。いずれの年代でも文部科学省「子供の学習費調査」で報告された利用割合を大きく下回っている。
- 有料の学習塾に通っていない理由のトップは「塾費用の経済的負担が大きい」（89%）。現在の収入では塾に行けない、塾代が払えず辞めることになったという声、無料や安価な学習支援を求める声がある。

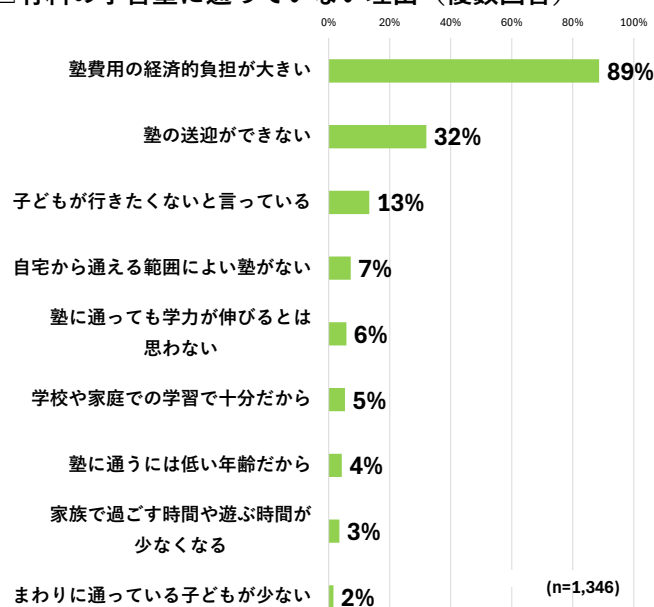
□ 有料の学習塾の利用割合（文部科学省調査との比較）



* 上：「小学生」・「中学生」・「高校生」の子どもがいる回答者が対象。文部科学省調査の数値は、「令和3年度子供の学習費調査」（文部科学省）における、学習塾費に年間1円以上支出している者の割合。

* 右：「小学生」・「中学生」・「高校生」の子どもがいる回答者のうち、いずれかの年代で有料の学習塾に通っていないとした回答者が対象。

□ 有料の学習塾に通っていない理由（複数回答）



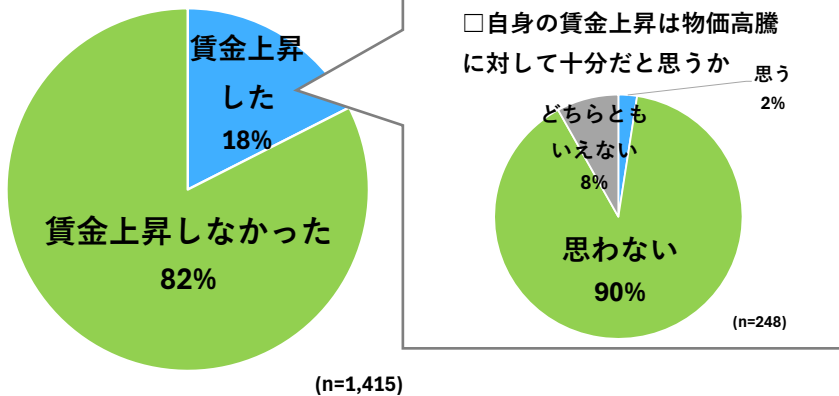
塾に関する困窮家庭の声（自由記述）

- 子供が小学4年生で、学習内容も難しくなりつつあるので塾に行かせたいのですが、今の収入ではとても行かせることはできません。これからどんどん学習内容も難しくなっていくので、私が見られるのも限界があります。
- 物価が上がり、塾や習い事の費用も高く、子どもたちが希望するもののさせてあげられないのが現状です。居場所にもなると思いますが、近くに学習支援の場があればありがたいと思っています。
- 塾へ通いたいと言われ4月5月はどうか塾代を捻出したが6月は払えない為辞める事になった。県が無料塾を開いているが車の運転が出来ない為送迎も出来ない。勉強はできるほうなので大学へ進学させてあげたい。せめてオンラインで塾と同等の勉強を無料で受けられるような仕組みがあればと思います。

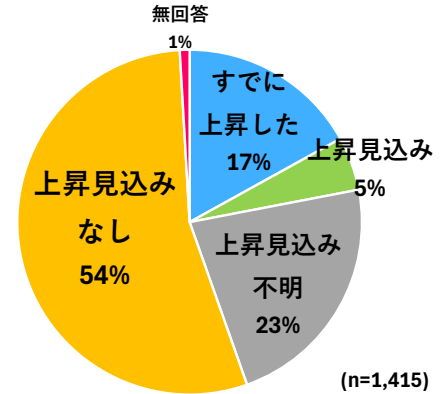
2.4 保護者の就労と賃金

- 2023年に賃金が上昇したとの回答は約2割に止まる。賃上げによる手取り月収の増加額（中央値）は5,000円であり、賃金が上昇した回答者の9割は、自身の賃金上昇は物価高騰に対して十分ではないと感じている。
- 2024年についても、賃金が上昇する割合は約2割（「すでに上昇した」（17%）と「上昇見込み」（5%）の合計）と、2023年と同様の傾向。
- 2023年・2024年のいずれにおいても、正社員と比較して、パート・アルバイトをはじめとする非正規雇用の賃金上昇の動きは限定的。勤務先の就業者規模によらず非正規雇用の「賃金が上昇した」割合は正社員を下回る。

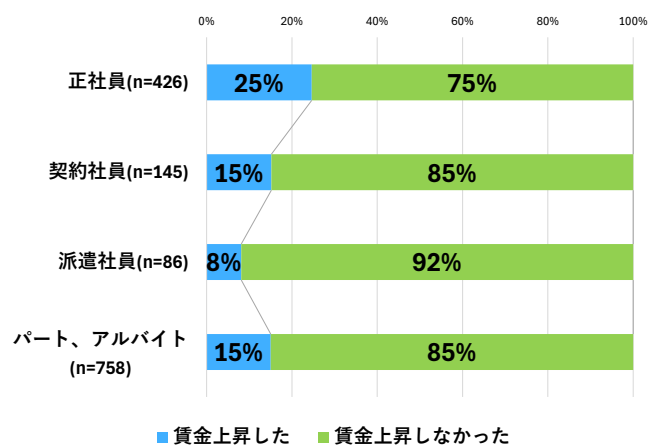
□2023年の賃金上昇



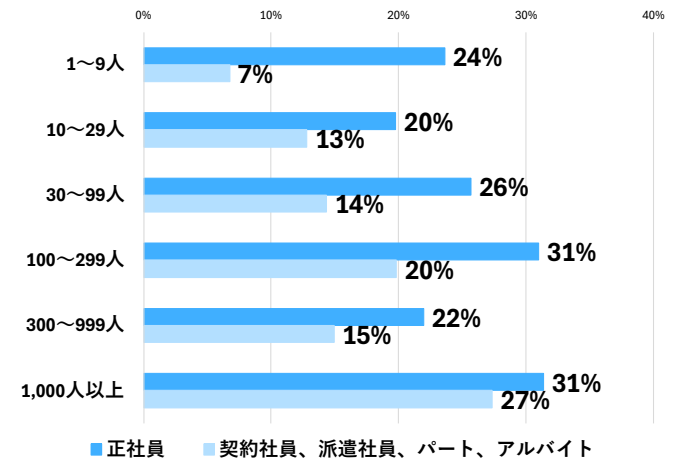
□2024年の賃金上昇



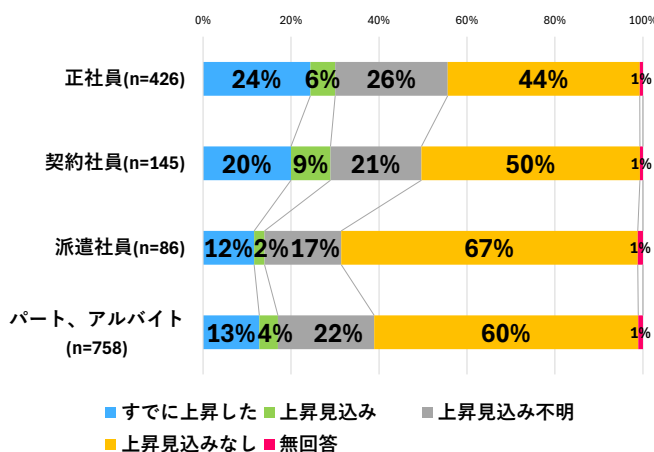
□雇用形態別・2023年の賃金上昇



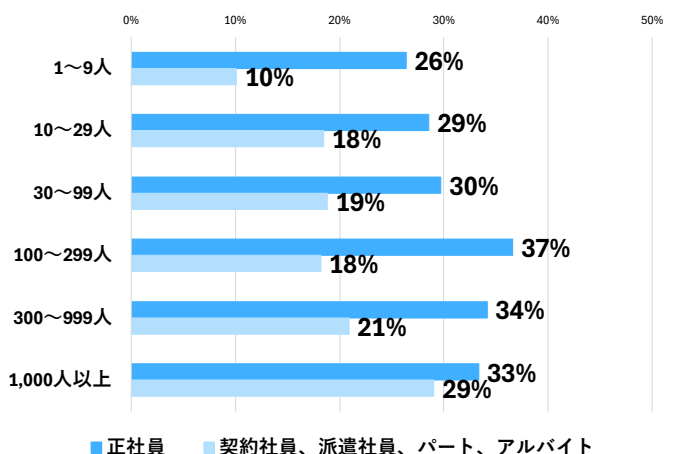
□雇用形態・勤務先規模別 2023年の賃金上昇割合



□雇用形態別・2024年の賃金上昇



□雇用形態・勤務先規模別 2024年の賃金上昇割合



*雇用形態が「正社員」、「契約社員」、「派遣社員」、「パート、アルバイト」のいずれかである回答者が対象。

就労に関する困窮家庭の声（自由記述）

- 長く働いていますがパートのため賃金が上がらない。
- 賃金は上がらないし、物価が高騰して何をかうにも高く、やりくりが大変です。シングルマザーでも積極的に採用（非正規ではなく正規社員）してくれる企業が増えてくれると嬉しいです。
- 小学生の子供は病児保育がなく、仕事を休むことになってしまう。有給はすぐなくなり、欠勤になりお給料が減ってしまう。
- 不登校の子供の対応をしたいのにその為には仕事を休まなければならない。そうすると収入が下がる仕事が休めない。不登校の現状が変わらないと、状況を変えることができない。
- 仕事に活かせる色々なジャンルの資格支援を増やしてほしいです。現在でも資格支援はありますが、日程が土日に絞られていることがほとんどです。土日祝は休まず、平日のみが休日の方もたくさんいます。有休がある方でも、資格の講習会等が毎週ある場合は休みづらいと思いますし、有休がもともとない方もいらっしゃると思います。
- スキルを身につける為に学校に通いたくても、資金すら用意できない状態です。学ぶ為の支援制度があっても、一旦自己資金で支払い、後から支援金を受けるなどになる為、結局学ぶことすら出来なっています。

2.5 困窮子育て家庭が抱える課題や求める支援

- 物価高騰の中、働いて収入を増やそうにも、所得上限を超えると非課税や児童扶養手当等の対象から外れ、かえって生活が苦しくなるという声が多数寄せられた。
- 高校生や大学生等のいる家庭からは、学費や進学費用、昼食代、交通費等の様々な費用がかかるにも関わらず、中学生までと比べて支援は少なく、生活は非常に苦しいとの回答が多くあった。
- パソコンやインターネット等のデジタル環境に大きな格差を抱えている家庭の存在も明らかとなった。

現在困っていることや支援がほしいこと（自由記述）

- 収入を増やそうと頑張ったら非課税世帯を抜け出し、給付金などは対象外となり税金もかかるのでこれが正解なのかわからなくなりました。生活は苦しくなったと感じています。
- シングルマザーでも、意欲を持って働ける社会になってほしい。今の制度では、働いて稼いだ分奨学金が給付受けられなくなったり児童扶養手当が減ったり等、生きていくのが厳しい世の中です。
- ひとり親、かつ多子世帯ではあるが収入が少しはみ出てるために児童扶養手当や国、行政の支援や地域の貧困家庭向けの支援がすべて受けられず借入れ負債も多額で困窮している。
- 子供が今年高校生になり、学費、昼食代、部活費の出費が大変で、自分の給料だけでは足りない状態です。周りの子供達と同じ事をしてあげられないのが辛いです。
- 大学生になり、手当が全て止まってしまう、まだまだ凄くお金がかかるのに辛い。もしかしたら今までで一番辛いかもしれません。
- 子供が大学に行った家庭への支援をして欲しいです。児童扶養手当もなくなり、子供の大学が遠方なため一人暮らしで、奨学金を借りてますが足りないため仕送り5万。残された家族は食事もおかずなしで過ごしています。
- 家にWi-Fi環境、パソコンなどなく携帯も最小限のギガだけで、高校生になるまでは携帯を持たせていないので、パソコンや、Wi-Fi環境などの支援があれば嬉しいです。
- 小中学校で使うタブレットの家庭学習が当たり前になっておりますが、インターネット通信費の負担が大きく感じています。